

「安全バイアス」とは「自分は多分大丈夫」、  
という誤った思い込みのことです。

平成28年1月10日  
せんげん支隊 情報・広報班

あけましておめでとうございます。皆さま良いお年をお迎えになったことと存じます。

いつ起きても不思議ではない、と言われ続けている首都直下地震、昨年は何事もなく過ぎました。今年も平穩無事な1年となることを心から祈らずにはられません。皆さん、今年もせんげん支隊の活動にご協力をお願いいたします。



### 1 昨年度の活動を振り返って

昨年のせんげん支隊の活動を振り返りますと、支隊長・班長を中心として充実した活動ができた1年であったと思います。特にスタンドパイプの訓練では、自前のマニュアルを作成して3回の実地訓練を重ね、消火隊（仮称）の編成にまで至りました。その実力は総合防災訓練や、支隊の防災訓練でいかに発揮されました。また感震ブレーカーの斡旋、非常用トイレや食料品などの備蓄品についての広報活動にも熱心に取り組みました。

今年は昨年以上の活動が期待されます。そのためには、昨年以上に多くの方が支隊で計画される活動に積極的に参加してほしいと思います。防災活動は一人ひとりが積極的に取り組むことが何より重要です。防災活動で求められるのは80%以上自助努力です。自助努力のないところに防災はありません。

### 2 「不安」9割も対策遅れー横浜市民防災意識調査より

横浜市は昨年6～7月に実施の市民の防災意識や取り組み状況を聞いたアンケート結果を発表した。持ち家、借家にかかわらず自宅の耐震状況を聞いた項目では、24パーセントが「1981年以前の旧耐震」と回答。このうち、「耐震改修を実施済み」「実施予定」と答えたのは、合わせて、19.9%にとどまった。

家具の固定など、転倒防止対策では、「固定していない」との回答が4割。その理由として「必要性を感じない」「面倒」との回答が半数を占めた。さらに、地域の防災訓練などについても52.1%が「なにも参加していない」と答え、全体として防災対策の取り組みの遅れが鮮明だった。

一方で、大地震発生への不安は「強く感じている」「多少感じている」が合わせて90.2%に達し、意識と実際の行動に大きな隔たりがみられると市の担当者は分析している。

このような傾向は横浜市に限らず、町田市も含めて関東に住む人に共通する意識だと思われます。不安は感じているが行動にはなかなか結びつかない、これを「安全バイアス」といいます。どこかに「自分は何とかなるだろう」という意識が働いていることを言います。

### 3 「防災おさらいクイズ」(東京防災から)ー「東京防災」を熟読しましょう！

- Q1 地震の揺れを感じたら、まず何をすべき？ (答え 17ページ)
- Q2 地震が起きたとき、火を使っていたらどうすべき？ (18ページ)
- Q3 地震で部屋に閉じ込められた/身動きできなくなったらどうすべき？ (25ページ)
- Q4 学校にいるときに地震が起きたらどうすべき？ (29ページ)
- Q5 地震が収まってすぐにはいけない行動は？ (38ページ)
- Q6 避難をする前に必ずやるべきことは？ (46ページ)
- Q7 避難をするときに注意すべきことは？ (48ページ)
- Q8 火事を発見したら、どの方向に、どのようにして逃げる？ (49ページ)
- Q9 要配慮者とはどんな人を指す？ (66ページ)

